



Photo courtesy of P-Vine.

Dday One

一匹狼のビート職人

Waxpoetics (Japan)

AUG / SEPT 2011

LA から、フライング・ロータスに代表される新世代のビートメイカーが次々と登場しているが、シーンの変化とは関係なく、自分のペースと世界観を守り続けているビート職人がいる。ウデゼ・ウクオマこと D デイ・ワンは、ナイジェリア人の父親とアメリカ人の母親のもと LA に生まれ、幼少期から幅広い音楽を吸収してきた。

「親父の影響でハイライフを、姉貴と兄貴を通してニューウェーブ、クラフトワーク、ヒップホップを早いうちから聴いていた。80年代の頃、うちの親父はクラブ経営をしていて、クラブ閉店後、DJ たちが帰ってから俺はターンテーブルを使って練習するようになった。兄貴がレコード・コレクターで、ファンク、ジャズ、サイケを持っていたから、彼のレコードを聴いて、ヒップホップ・アーティストがどういう曲をサンプリングしているかが分かったんだ。兄貴と一緒にリサイクル・ショップやレコード店を回ってディギングについて学び、1995年にサンプラーを入手してビートを作るようになった」

グラフィティ・ライター時代から D デイ・ワンと名乗っていた彼は、Project Mooncircle、Needlework Records、彼自身が運営する Content Label など、数々のレーベルから作品リリースしているが、どのシーンにも属さず、一匹狼のビート職人としてスタンスを貫いてきた。

「俺のことを LA 出身だと思っていない人もいるけど、それは1つのシーンに所属していないからだと思う。だからといって、孤独でいようと意識しているわけでもなくて、ただ、最近の音楽よりも過去の音楽に影響されることの方が多いんだ。何かのシーンに関わりすぎると、自分のサウンドがフィルターされて、濃さがなくなってしまうことがあると思う」

P-Vine からの正式なファースト・アルバムである『Loop Extensions』のデラックス・バージョンと、それ以前にカセットと CD-R だけで出回った『Mood Algorithms』がこのたび発売されるが、なぜこのタイミングで再発しようと思ったのか。

「2005年に初めて『Loop Extensions』をリリースしたとき、自分でアナログを500枚だけプレスしたんだ。初回のプレスが eBay で100ドルくらいで売れていたのを見たことがあるけど、結局3回ほど

再プレスした。でも、また同じように再プレスするんじゃなくて、リミックス、デモ曲などを入れたデラックス・バージョンとして出そうと思った。俺のように、1つのシーンに束縛されていないアーティストや、サンプリング・ミュージックの歴史を理解してる人にリミックスを依頼したよ。『Loop Extensions』というタイトルには「ループを超越する」という意味が込められている。細かいループから曲を作り始めるわけだけど、小さいアイデアがどんどん発展して、最終的には全く別のものが生まれる。『Mood Algorithms』は1998年から99年に制作したけど、俺の非正式なデビュー・アルバムで、カセットと CD-R だけを中間に配った。『Mood Algorithms』のマスター音源は自分でも持っていなかったんだ。仲間が持っているカセットが見つかったけど、音が劣化していてヒス音が酷かった。収録曲のデータをミニディスク、DAT、CD-R、カセットなどからどうにか拾い集めて修復したんだ。P-Vine から出すバージョンにも、ヒス音はしっかり入っている。当分の鬱田気を出すために、そのまま入れておくことにしたんだ(笑)」

D デイ・ワンが使用する機材は至ってシンプルだが、その限界の中からこそ、新たな可能性が見つかると思う。

「俺が使う機材は、1台のターンテーブル、ミキサー、Ensoniq ASR のサンプラーだけ。最近のソフトや機材はほとんど多機能になっているけど、制限はあるべきだと思う。制限があった方がいいものが作れるし、それを乗り越えるために努力するんだ」

最近のビートメイキングはサンプリングよりもソフトウェアが主流になってきているが、今後でも D デイ・ワンはサンプリングの美学を継承していく。

「サンプリングは決して死んでないし、俺はこれからもサンプリングにこだわり続ける。1969年に作られた曲と、1983年に作られた曲もサンプリングして、2011年に新たな曲をクリエイとする作業は凄く面白い。サンプリングを進化させるには、他の連中を真似するのではなく、何かを貢献しないといけない。俺はサンプリング・ミュージックの系譜に、自分の爪痕を刻みたいんだ」 ● Hashim Bharoocha